

渡良瀬遊水地および周辺の自然・生物に関する 調査研究と学習に関する組織化

担当研究員：薄木 三生（国際地域学部国際観光学科・教授）
井上 明（生命科学部応用生命科学科・教授）
金子 律子（生命科学部生命科学科・教授）
廣津 直樹（生命科学部生命科学科・准教授）
長濱 元（地域活性化研究所・客員研究員）

1. 本研究の背景と目的

本研究は平成 19 年度から開始し、渡良瀬遊水地周辺の学校教員と大人の住民を対象として、遊水地に生息する生物について、およびそれらと自然環境や人間（社会）との間にどのような関係があるのかということに関する学習を組織化することを目的としている。

この研究を始めた動機は、渡良瀬遊水地の自然と生態に関する学習について調査をしたところ、組織的な学習は渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団が周辺の小学校を対象に行っている活動以外には組織的な学習は少なく、特にガイドや学校教員を対象とする活動は組織的には行われていない状況であることが分かったからである。

子どもたちに対する指導者養成という観点や地域の住民・遊水地訪問者に対するガイダンスができる人材の育成という観点からも大人を対象とする学習活動の組織化の必要性を強く感じたことによる。

また協力者として、渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団および魚、植物、野鳥、昆虫などの分野における指導者の協力を受けることができたことが事業の実現を可能とした。

2. 本研究のこれまでの実績と年次計画

本研究は平成 19 年度以降 24 年度まで 6 年間にわたり実施を継続してきた。実施当初には学習組織化の明確な目途は持っていなかったが、研究を進めるにしたがって全体的な見通しがたってきたため、平成 22 年度以降は一応当初からの 8 年計画として平成 26 年度を事業の最終年度として進めることとした。したがって、あと残った 2 年間の活動で学習組織化への道筋を明らかにし、その後は新しい形の事業へと発展させるルールを引いて本研究のまとめとする予定である。

次ページの表は本研究のメインの活動である「指導者養成講座」の 6 年間の開催実績であるが、これらの他に 23 年 7 月に学生サークル「水棲生物研究会」の協力を得て、魚と漁業に関する知見を学習するため、「魚と漁業に関する研究会」を実施した。

また「指導者養成講座」に加えて「ヨシ紙づくり講座」と「展示講座」を 23 年度から開始し、さらに 24 年度には「キャンパス公開講座」も開催し、学習の幅を広げてきた。

指導者養成講座の参加者募集に関しては、これまでの経験から地域の学校や自治体・地域の行事（イベント）との日程上の重複による影響が大きいことが分かっており、気を付けていたが、今年度の募集では猛暑の影響により大きな影響を被った。

また、第 1 回以降参加者募集地域をじょじょに拡大し、そのことが参加者の安定的な確保に貢献してきた。しかし、23 年度から講座の専門性を高めて募集対象を絞り込むようにしたことにより、24 年度には異例な猛暑の影響による他の行事（イベント）との日程上の競合が大きく重なり参加者の激減を招いた。25 年度以降は他の行事との競合にさらに留意するとともに募集方法の改善にも取り組むこととしている。

次に本研究の最終段階である平成 25～26 年度の研究計画であるが、それらは後で述べる渡良瀬遊水地に関する学習活動の現状・動向と、渡良瀬遊水地が平成 24 年 7 月にユネスコによりラムサール湿地に登録されたことによる新しい社会的条件に対応するための緊急に必要な課題に取り組むことになる。そのためには学習内容の高度化と構造化を伴う他、学習活動に携わる各団体（グループ、専門家など）の活動の趣旨を踏まえた位置づけや役割分担などを検討する必要がある。

また、これまでに実施されてこなかった新しい事業への取り組みも必要となつてこよう。それらに対応した研究課題を立てて、平成 25～26 年度の活動に取り組むこととしている。

「自然体験活動に関する指導者養成講座」の実績表

実施時期	参加者の対象地域	実施した学習分野	参加者数（講師・スタッフを除く）
第1回 （平成19年12月1日）	板倉町のみ	1. 旧谷中村の歴史 2. 野鳥観察 3. 魚類観察	38名
第2回 （平成20年8月9日）	板倉町、 旧藤岡町、 旧北川辺町	1. 植物観察 2. 魚類観察	51名
第3回 （平成21年9月12日）	板倉町、旧藤岡町、旧北川辺町、旧古河市	1. 植物観察 2. 昆虫観察 3. 魚類観察	47名
第4回 （平成22年9月11日）	板倉町、旧藤岡町、旧北川辺町、旧古河市、野木町、小山市（南部地域）	1. 植物観察 2. 昆虫観察 3. 魚類観察	48名
第5回 （平成23年12月10日）	板倉町、旧藤岡町、旧北川辺町、旧古河市、野木町、小山市（南部地域）	野鳥の学習と観察 （観察前学習の取り入れ）	36名
第6回 （平成24年9月29日）	板倉町、旧藤岡町、旧北川辺町、旧大利根町、旧栗橋町、旧古河市、野木町、小山市（南部地域）、	昆虫の学習と観察 （観察前学習の取り入れ）	3名

3. 渡良瀬遊水地における学習活動の状況

渡良瀬遊水地の生物（植物、野鳥、魚、昆虫など）に関する一般の人々を対象とする学習会は、それぞれの専門家を指導者としてしばしば開催されている。それらの主催者は渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団、渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会、わたらせ未来基金などの渡良瀬遊水地関係団体の他に植物や野鳥・昆虫などに関する同好のグループ、またそれぞれの分野の専門家が個人的に開催する観察会などであり、それぞれの分野の適切な時期にほぼ年間を通じて不定期ではあるがけっこう開催されてきていた。

しかし従来は組織的・定期的に開催されても年1～2回程度のものであり、組織的な活動を多数確保していたのは、渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団が近隣の小学校を対象として行う環境教育の一環としての学習会くらいであった。そのことが本研究を開始して一般の人々や学校教員を対象とする組織的な学習活動の組織化を図ることの根拠となった。

また、これまで一般の人々を対象とする定期的な観察会の開催には踏み切っていなかった渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団が、2年前から（社）関東建設弘済会の助成を得て年間を通じて10回程度の渡良瀬遊水地の観察会の実施を開始し、平成24年度から本格的な実施を行うようになったため、本研究による事業との連携・役割分担が可能になった。

さらに近年、藤岡まちづくり委員会、北川辺まちづくり協議会などの近隣のまちづくり団体においても、まちづくり活動の一環として組織的・準定期的に渡良瀬遊水地の自然などの観察会、学習会を開催するようになってきている。また、植物、野鳥、昆虫などの専門家がこれまで不定期に開催していた自主的な観察会を定期化することも進んでおり、それらも含めて全体的に学習活動は盛んになりつつある。

4. ラムサール条約湿地登録と今後の展望

平成24年7月に渡良瀬遊水地がユネスコによりラムサール条約に基づく保存湿地に指定されたことにより、より大勢の観光客が訪問するばかりではなく、渡良瀬遊水地には絶滅危惧種が多く生息していることから、今までより多くの自然愛好家、専門家等が訪れるようになることが予想され、そのことに対する地元の受け入れ態勢の整備が要請されている。それに伴って渡良瀬遊水地の自然、生息する各種の生物、環境保全などに関するレベルの高いガイド（案内人）の需要が高まるものと予想される。

渡良瀬遊水地に関する学習教材としては、同地を管理する国土交通省河川局の出先機関である利根川上流河川事務所が幾つかのパンフレットを発行し、ホームページからも情報を発信している。また、渡良瀬遊水地アクション振興財団においても魚、植物、野鳥、昆虫などの図鑑、渡良瀬遊水地の歴史に関する冊子を発行するとともに、遊水地の自然や利用に関するさまざまな情報をホームページによって発信している。さらに民間団体である渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会でも、その活動や渡良瀬遊水地の歴史や環境保全のためにさまざまな活動を行ってきたことを、書籍としてまとめて発行している。

その他、インターネットが普及したことにより、多くの遊水地愛好者が自分の見聞記や映像を私的に大量に掲載するようになり、季節ごとの風景やそこに生息している動植物の映像も十分に堪能できる状況となっている。

歴史的にみると、渡良瀬遊水地は周辺の地域における度重なる洪水被害やそれを拡大する原因となった足尾銅山による鉱害被害などへの対策としておよそ 100 年前前から造成が始まり、それを阻止しようとした田中正造翁の反対運動・足尾の山の緑化運動など、自然保護活動や歴史・社会に関する話題も多い。

そのような資料がばらばらと流通している中で、個人的に学習を深めることはできるものの、前記のようなラムサール条約湿地登録の効果による国内や海外からのまとまった知的要求に応え、来訪者に対する対応などに組織的・整合的に対応する知的準備ができるかどうか大きな課題となってくる。

学術的に精細・難解な内容については、それぞれの分野の専門家や学会・団体などが対応するにしても、一般の観光客や一定の知的関心を持った（アマチュアの）来訪者に対して整理された情報を用意したり、一定数の案内人を育成することは、観光等による経済的・文化的活性化を目指す周辺の自治体と商工団体・観光協会等にとっても重要な問題であるはずである。

周辺の自治体や各団体等が早急に一体となって取り組む体制は、地域の現状からみてもすぐには難しいと思われるが、知的な課題（話題）として渡良瀬遊水地に関する知識・ことがらを国内外に普及させ、渡良瀬遊水地に関する知識とその周辺地域の知名度を高めていくことは大切であり、渡良瀬遊水池を地域活性化のために大いに役立てたいと思う心は共通であろう。

そのような共通の関心を具体的な形で表すために、単なる広報・宣伝活動ではなく、渡良瀬遊水池に関する知識を学習し、その成果を目に見えるような指標として社会に示せるような仕組み（例えば、ご当地検定のような）を研究し、周辺地域の共通のツールとして利用していくような試みが必要と考えている。現在行われているさまざまな学習活動を基盤として、その上に一次元高い学習のシステムを構築していくことが、渡良瀬遊水池に関する学習の組織化を目指す次の目標となるであろう。

以下は、本研究の質の向上を目指す試みとして行った 3 つの学習（研究）会の映像である。

(1) 魚と漁業に関する学習

(2) 野鳥に関する学習

(3) 昆虫に関する学習



平成 23 年 7 月 30 日実施
（講師は染谷友次氏）
魚の種類、漁具、漁法、漁協
などの組織と活動について
学んだ。



平成 23 年 9 月 11 日実施
（講師は一色安義氏）
遊水池の食物連鎖における
野鳥の位置づけと、生態系の
保全のあり方について学んだ。



平成 24 年 9 月 29 日実施
（講師は大川秀雄氏）
ヨシ焼き中止の影響、絶滅
危惧種の現状、温暖化の
影響などについて学んだ。